

# 日本産業衛生学会 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会  
(事務局 圓藤吟史)  
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
大阪市立大学医学部環境衛生学教室内  
FAX 06-6646-3160  
発行責任者(地方会長) 堀口 俊一

## 第51回近畿地方会総会および基調講演・シンポジウムのご案内

日本産業衛生学会近畿地方会 会長 堀口 俊一

日本産業衛生学会近畿地方会の総会を開催いたします。会員の多数の参加をお待ちしています。

日 時 平成15年5月31日(土) 13時から16時30分まで

場 所 大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室

〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3 (下図)

- 地下鉄御堂筋線・谷町線「天王寺」 ●JR「天王寺」
- 近鉄南大阪線「あべの橋駅」より西へ徒歩10分

### —総会プログラム—

議事 13時00分～13時50分

- (1) 平成14年度事業報告および平成14年度決算報告
- (2) 平成15年度事業計画(案)および平成15年度予算(案)報告
- (3) その他

### —基調講演・シンポジウム—

14時00分～16時30分

#### 1. 基調講演

「産業保健とリスクマネジメント」

演者 岡田 邦夫 (大阪ガス(株)健康管理センター)

座長 河野 公一(大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学)

#### 2. シンポジウム

「労働安全衛生マネジメントシステム

—産業保健専門職の役割」

演者 引石 文夫 (大阪市交通局健康管理室)

島村 紘二 (近畿安全衛生サービスセンター)

鈴木 純子 (日本IBM(株)大阪健康開発支援センター)

中前 孝雄(グローバルテクノ大阪研修センター)

司会 宮下 和久 (和歌山県立医科大学 衛生学)

大脇多美代 (みずほフィナンシャルグループ

大阪健康開発センター)

なお、今回は日本医師会認定制度の単位申請はしておりません。

産業看護職継続教育 実力アップ単位認定申請中

### 評議員の皆さまへ

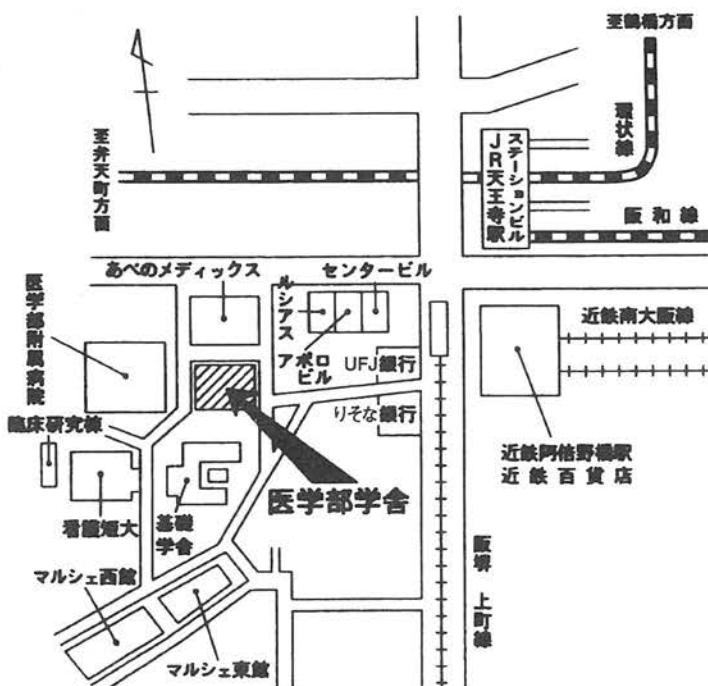
総会の前に評議員会を開催いたします。評議員の方はご出席下さい。

日本産業衛生学会 近畿地方会 会長 堀口 俊一

日 時 平成15年5月31日(土) 12時20分～12時50分

場 所 大阪市立大学医学部学舎4階 小講義室2

地方会ニュースに同封されています総会および評議員会出欠確認用ハガキを5月16日までに必ずご返送下さい。昼食の準備はしていませんので予め済ませてご来場下さい。



## 総会資料

## 平成14年度決算及び平成15年度予算(案)

	平成14年度		平成15年度(案)
	予算額	決算額	予算額
<b>(収入の部)</b>			
収入合計	5,676,555	8,800,505	8,734,364
前期繰越金	1,666,255	1,897,136	4,934,264
本部交付金	2,000,000	1,849,500	1,900,000
地方会費	1,800,000	1,618,000	1,700,000
利息	300	73	100
広告収入	210,000	210,870	200,000
雑収入	0	3,224,926	0
第75回日本産業衛生学会(神戸)より返金		1,001,445	
50周年記念事業費残金(実行委員会より返金)		2,223,481	
<b>(支出の部)</b>			
支出合計	5,676,555	8,800,505	8,734,364
需要費合計	1,950,000	1,493,023	2,000,000
印刷費	750,000	755,790	800,000
備品	300,000	3,899	300,000
消耗品	100,000	46,058	100,000
通信運搬費	800,000	683,683	800,000
地方会運営費合計	605,000	511,211	605,000
総会費	150,000	152,060	150,000
学会費	350,000	350,000	350,000
幹事、評議員会費	105,000	9,151	105,000
部会活動費合計	200,000	300,000	300,000
産業医部会	100,000	100,000	100,000
産業看護部会	100,000	100,000	100,000
産業技術部会	100,000	100,000	100,000
研究会費合計	450,000	180,000	450,000
研究会補助金	300,000	150,000	300,000
研修会補助金	150,000	30,000	150,000
事務局費合計	400,000	400,000	400,000
活動費合計	510,000	220,000	510,000
学術担当費	250,000	0	250,000
広報活動費	150,000	150,000	150,000
理事活動費	110,000	70,000	110,000
積立金合計	100,000	300,000	300,000
役員選挙積立金	100,000	300,000	300,000
事業費			1,001,445
第14回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会補助金			1,001,445
諸雑費	100,000	2,660	100,000
予備費	1,361,555	429,347	3,067,919
次年度繰越し金	0	4,964,264	0

## 財産目録

1. パソコン Gateway SOLO 5300 1台
2. パソコン NEC 98ノート 1台
3. エプソンレーザープリンター 1台
4. FAXおよびTEL回線 1台

## 事務局からのお願い

## 地方会費納入のお願い

- ① 地方会費は2000円です。同封の振込用紙で郵便局から払い込んで下さい。

口座番号：00980-6-120808

加入者名：日本産業衛生学会近畿地方会

- ② 振込人と会員名が異なる場合は必ず通信欄に会員名をご記入下さい。

- ③ 経費節減並びに事務処理の簡素化のため領収書は発行いたしません。振込用紙の控えを領収書に替えさせていただきます。

- ④ 総会当日、地方会費の納入を受け付けます。(領収書は地方会から発行します)

## 平成14年度日本産業衛生学会 近畿地方会事業報告

### I. 第50回近畿地方会総会

日 時：平成14年5月25日（土）13：00～16：30  
場 所：大阪市立大学医学部学舎4階 中講義室  
出席者：368名（出席者64名、委任状304名）  
会員数1348名（平成14年5月現在）

50周年記念基調講演・シンポジウム：

テーマ 「近畿地方会50年のあゆみと今後の展望」

(1) 基調講演「日本産業衛生学会近畿地方会50年を  
ふりかえって」

演者 堀口 俊一（近畿地方会会長）

座長 徳永 力雄（関西医科大学衛生学）

(2) シンポジウム「これからの産業保健—私の提案—」

- 1) 山田 誠二（松下産業衛生科学センター）
- 2) 海道 昌宣（P & G）
- 3) 河合 俊夫（中災防大阪労働衛生総合センター）
- 4) 植本 寿満枝（北大阪地域産業保健センター）
- 5) 熊谷 信二（大阪府立公衆衛生研究所）
- 6) 小泉 昭夫（京都大学大学院健康要因学）
- 7) 埴田 和史（滋賀医科大学予防医学）

総合討論

司会 小泉 直子（兵庫医科大学公衆衛生学）

圓藤 吟史（大阪市立大学大学院産業医学分野）

### II. 近畿地方会50周年記念祝賀会

日 時：平成14年5月25日（土）18：00～20：00  
場 所：天王寺都ホテル 6階吉野の間

### III. 第42回近畿産業衛生学会

日 時：平成14年11月9日（土）9：30～17：00  
場 所：大阪医科大学

学会長：河野 公一（大阪医科大学衛生学・公衆衛生学）  
—特別講演—

「心肺蘇生法の新しい潮流-労働現場、またはリハビリ  
テーション施設、公的施設に自動除細動器導入の意義-」

演者 富士原 彰（大阪医科大学救急医療部教授）

座長 河野 公一（大阪医科大学衛生学・公衆衛生学）

—実 習—

### IV. 評議員会

第1回 平成14年5月25日（土）大阪市立大学医学部学舎

第2回 平成14年11月9日（土）大阪医科大学

### V. 幹事会

第1回 平成14年5月25日（土）大阪市立大学医学部学舎

第2回 平成14年6月25日（火）大阪市立大学医学部学舎

第3回 平成14年11月9日（土）大阪医科大学

第4回 平成15年4月3日（木）大阪市立大学医学部学舎

### VI. 近畿地方会ニュース

- (1) 近畿地方会ニュース第50号 平成14年5月1日
- (2) 近畿地方会ニュース第51号 平成14年7月15日
- (3) 近畿地方会ニュース第52号 平成14年10月15日
- (4) 近畿地方会ニュース第53号 平成15年1月15日

### VII-1. 近畿産業医部会

(1) 第6回近畿産業医部会研修会

日 時：平成14年7月13日（土）13：30～17：00

場 所：大阪市立大学医学部学舎

基調講演：「産業保健における作業環境管理」

道辻 広美（松下産業衛生科学センター）

シンポジウム：「作業環境管理における産業保健スタッフ  
のコラボレーション」

- 1) 専属産業医の立場から（化学物質を中心に）  
土肥 誠太郎（三井化学(株)本社健康管理室）
- 2) 専属産業医の立場から（物理的要因を中心に）  
上原 新一郎（(株)JR西日本大阪鉄道病院）
- 3) 衛生管理者の立場から  
飯田 力（松下電器産業(株)照明社人事グループ）
- 4) 作業環境測定士の立場から  
道辻 広美（松下産業衛生科学センター）

参加者数 206名

(2) 第7回近畿産業医部会研修会

日 時：平成15年2月8日（土）13：30～17：00

場 所：大阪市立大学医学部学舎

基調講演：「生活習慣病とゲノム」

白川 太郎（京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学）

シンポジウム：「健康影響の個人差～オーダーメイドの健康  
管理へ」

- 1) 飲酒による健康影響と個人差～アルコール感受  
性とがん予防  
竹下 達也（和歌山県立医科大学公衆衛生学）
- 2) 喫煙による健康影響と個人差～遺伝子多型と禁煙誘導  
浜島 信之（愛知県がんセンター）
- 3) ストレスによる健康影響と個人差～タイプA・タイプC  
永野 純（九州大学健康科学センター）
- 4) シックハウス症候群と化学物質過敏症（MCS）  
圓藤 陽子（関西医科大学公衆衛生学）

参加者数 211名

(3) ケースカンファレンス・ケーススタディ研修会(共催)

①日 時：平成14年6月27日（木）

場 所：大阪産業保健推進センター

（対象地域：大阪中央）（参加者21名）

②日 時：平成14年7月10日（水）

場 所：大阪産業保健推進センター

（対象地域：大阪南）（参加者24名）

③日 時：平成14年8月22日（木）

場 所：大阪産業保健推進センター

（対象地域：天満）（参加者13名）

④日 時：平成14年9月18日（水）

場 所：大阪産業保健推進センター

（対象地域：大阪西）（参加者14名）

- ⑤日 時：平成14年10月17日（木）  
場 所：大阪産業保健推進センター  
（対象地域：西野田）（参加者10名）
- ⑥日 時：平成14年11月27日（水）  
場 所：大阪産業保健推進センター  
（対象地域：淀川）（参加者21名）
- ⑦日 時：平成14年12月18日（水）  
場 所：堺市医師会館  
（対象地域：岸和田、泉大津、堺）（参加者23名）
- ⑧日 時：平成15年1月22日（水）  
場 所：布施医師会館  
（対象地域：羽曳野、東大阪）（参加者21名）
- ⑨日 時：平成15年2月13日（木）  
場 所：大阪産業保健推進センター  
（対象地域：北大阪）（参加者8名）
- ⑩日 時：平成15年3月19日（水）  
場 所：茨木市保健医療センター  
（対象地域：茨木）（参加者14名）

VII-II. 近畿産業看護部会

- (1) 産業看護部会平成14年度特別研修会  
日 時：平成14年12月3日（火）14：00～16：00  
場 所：大阪産業保健推進センター  
テーマ 「感染症の予防」  
講師 橋本 博（大阪産業保健推進センター相談員）  
参加者数 27名
- (2) 産業看護部会平成14年度研修会  
＜第1回＞  
日 時：平成14年10月19日（土）14：00～16：00  
場 所：大阪産業保健推進センター  
テーマ 「最近の労働衛生行政の動向～過重労働、深夜業など～」  
講師 一色 孝徳（鳴門労働基準監督署）  
参加者数 37名  
＜第2回＞  
日 時：平成15年2月22日（土）13：30～  
場 所：大阪府立ドーンセンター  
テーマ 「最近の労働衛生の動向～過重労働による健康障害とその予防対策～」  
講師 岡田 邦夫（大阪ガス健康管理センター）  
参加者数 53名

VII-III. 近畿産業衛生技術部会

- 近畿産業衛生技術部会総会・講演会  
日 時：平成14年12月7日（土）13：30～16：30  
場 所：中災防 大阪労働衛生総合センター  
テーマ 「最近の測定技術と問題点」  
（1）シックハウスについて  
    圓藤 陽子（関西医科大学公衆衛生学）  
（2）3,4-エチレンジオキシチオフェンの測定法に関する検討  
    藤原 治（三洋電機）  
（3）ストレス指標について  
    中迫 勝（大阪教育大学）  
参加者数 18名

VIII. 産業衛生講座—講習会—

- ＜第19回＞  
日 時：平成14年8月31日（土）  
場 所：大阪市立大学医学部学舎  
（1）「産業衛生概論」  
    徳永 力雄（関西医科大学衛生学）  
（2）「職場におけるメンタルヘルスマネジメント」  
    切池 信夫（大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学）  
参加者数 201名
- ＜第20回＞  
日 時：平成14年11月30日（土）  
場 所：大阪市立大学医学部学舎  
（1）「勤労者のライフスタイルと遺伝素因の交互作用と健康の保持増進」  
    竹下 達也（和歌山県立医科大学公衆衛生学）  
（2）「中小企業における産業保健活動」  
    朝枝 哲也（京都工場保健会）  
参加者数 229名
- ＜第21回＞  
日 時：平成15年3月15日（土）  
場 所：大阪市立大学医学部学舎  
（1）「職場における循環系疾患の一次予防対策」  
    渡辺 丈真（大阪医科大学衛生学・公衆衛生学）  
（2）「健康情報の管理と活用について」  
    宮上 浩史（松下産業衛生科学センター）  
参加者数 159名

IX. 研究会活動

- (1) 第10回労働衛生法制度研究会  
    平成14年11月2日（土）近畿大学会館
- (2) 産業精神衛生研究会  
    第1回 平成14年6月6日（木）住友クラブ（肥後橋）  
    第2回 平成14年9月13日（金）住友クラブ（肥後橋）
- (3) 第6回職業性筋骨格系障害研究会  
    平成15年1月11日（土）同志社大学

**医療の可能性を追求し創造する**

私たち、医療法人城見会の理念です

医療法人城見会  
アムスニューオータニクリニック

〒540-8578 大阪市中央区城見1-4 新大阪駅前4階  
TEL：06-6949-0305 FAX：06-6949-0309

Advanced Medical Services  
**aMs**

医療法人城見会 アムスグループ

- ・アムスランドマーククリニック（人間ドック施設）
- ・アムス大谷クリニックグループ（診療所・在宅支援事業）
- ・アムス柔道整復師養成学院

## ●●●● 平成15年度日本産業衛生学会 近畿地方会事業計画 (案) ●●●●

### I. 第51回近畿地方会総会

日 時：平成15年5月31日(土) 13:00~17:00

場 所：大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室

### II. 第43回近畿産業衛生学会

日 時：平成15年11月8日(土) 9:00~17:00

場 所：兵庫医科大学

学会長：井口 弘(兵庫医科大学教授)

### III. 評議員会

第1回 平成15年5月31日(土)

大阪市立大学医学部学舎 4階小講義室2

第2回 平成15年11月8日(土)

兵庫医科大学

### IV. 幹事会

第1回 平成15年5月31日(土) 大阪市立大学医学部学舎

第2回 平成15年7月予定

第3回 平成15年11月8日(土) 兵庫医科大学

第4回 平成16年2月予定

### V. 近畿地方会ニュース

(1) 近畿地方会ニュース第54号 平成15年5月1日

(2) 近畿地方会ニュース第55号 平成15年7月15日

(3) 近畿地方会ニュース第56号 平成15年10月15日

(4) 近畿地方会ニュース第57号 平成16年1月15日

### VI-1. 近畿産業医部会

(1) 第8回近畿産業医部会研修会

日 時：平成15年6月28日(土) 13:30~17:00

場 所：兵庫医科大学医学部学舎

実行委員長 本岡 康(新日本製鐵)

(2) 第9回近畿産業医部会研修会

日 時：平成16年2月実施予定

実行委員長 大東 正明(ダイハツ工業)

(3) ケースカンファレンス研修会(共催)

①日 時：平成15年6月18日(水)

場 所：大阪産業保健推進センター

(対象地域：大阪中央)

②日 時：平成15年7月17日(木)

場 所：大阪産業保健推進センター

(対象地域：大阪南)

③日 時：平成15年8月21日(木)

場 所：大阪産業保健推進センター

(対象地域：天満)

④日 時：平成15年9月18日(木)

場 所：大阪産業保健推進センター

(対象地域：大阪西)

⑤日 時：平成15年10月15日(水)

場 所：大阪産業保健推進センター

(対象地域：西野田)

⑥日 時：平成15年11月27日(木)

場 所：大阪産業保健推進センター

(対象地域：淀川)

⑦日 時：平成15年12月4日(木)

場 所：堺市医師会館

(対象地域：岸和田, 泉大津, 堺)

⑧日 時：平成16年1月22日(木)

場 所：布施医師会館

(対象地域：羽曳野, 東大阪)

⑨日 時：平成16年2月12日(木)

場 所：大阪産業保健推進センター

(対象地域：北大阪)

⑩日 時：平成16年3月17日(水)

場 所：茨木市保健医療センター

(対象地域：茨木)

### VI-II. 近畿産業看護部会

(1) 平成15年度特別研修会

テーマ 「感染症」 平成15年12月実施予定

(2) 近畿産業看護部会平成15年度研修会

メインテーマ 「メンタルヘルス」

第1回「傾聴法」 平成15年9月実施予定

第2回「面接技術」 平成16年2月実施予定

第3回「ストレスチェック」 調整中

### VI-III. 近畿産業衛生技術部会

調整中

### VII. 産業衛生講座

<第22回>

日 時：平成15年8月23日(土) 13:30~16:30

場 所：大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室

<第23回>

日 時：平成15年10月25日(土) 13:30~16:30

場 所：大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室

<第24回>

日 時：平成16年3月6日(土) 13:30~16:30

場 所：大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室

### VIII. 研究会活動

(1) 第7回職業性筋骨格系障害研究会

平成16年1月開催予定

(2) じん肺研究会 調整中

(3) 職業性腫瘍研究会 調整中

(4) 産業精神衛生研究会 調整中

(5) 第11回労働衛生法制度研究会

平成15年5月31日(土) 13:00~17:00

「日本の雇用慣行の変容と人事・労務管理のあり方」

場 所 近畿大学会館3階3会議室

## 報 告

## 第7回近畿産業医部会研修会を開催して

第7回近畿産業医部会研修会実行委員長  
(財)京都工場保健会副所長 朝枝 哲也

平成15年2月8日、日本産業衛生学会近畿地方会・産業医部会主催の第7回近畿産業医部会研修会が大阪市立大学医学部学舎において開催され、210人を超える医師が熱心に聴講しました。今回のメインテーマは「健康影響の個人差～オーダーメイドの健康管理へ」の下、冒頭開会挨拶の中で堀口俊一地方会長は個人差の問題は新しいテーマのようで古くからの重要なテーマであったと自身の研究の一端を披露されました。引き続き、座長の酒井英雄氏（大阪府医師会・産業医部会副部会長）の進行で白川太郎氏（京都大学健康増進・行動学教授）による基調講演「生活習慣病とゲノム」があり、同氏がプロジェクトリーダーを務める理化学研究所で現在進められているミレニアムプロジェクトの状況等が紹介されました。特にゲノム情報によるオーダーメイド医療が期待されているものの、個人差がある程度のオーダーに収束するものでなければ実用性がなく現在はその結論がまだ出ていない状況にあり、楽観的に見てもその恩恵を享受するまでには今しばらくの時間がかかるだろうと見通しを述べられました。

続いてメインテーマのシンポジウムが開催されました。今回は、現在流行のEBMが個性を均一化してしまう無作為比較対照試験(RCT)に基づいていることから、同時に個性や多様性の視点が不可欠であるというねらいから企画されたものです。まず初めに「アルコール感受性とがん予防」と題して竹下達也氏（和歌山医大公衆衛生学教授）は、特に日本人に多いALDH2の遺伝子多型である1/2型は、1/1型に比べると相対危険度にして食道がん等では10倍以上になることを報告され、飲酒における個人差への配慮の重要性について警鐘されました。次に「遺伝子多型と禁煙誘導」と題して浜島信之氏（名古屋大学大学院予防医学教授）は、GSTM1を用いた禁煙誘導ではやや効果が見られるものの改良すべき課題も残されていると報告されました。次に「ストレスによる健康影響と個人差～タイプA・タイプC」と題して、永野 純氏（九大健康医学・心理学助教授）は、 $\text{ストレス} = \text{ストレス} \times \text{性格}$ とし、またタイプAの特徴の中でも「怒り」が虚血性心疾患に関連している最近の知見やEysenckとGrossarth-Maticekらによる意欲的な研究を紹介されました。最後のシンポジストとして圓藤陽子氏（関西医大公衆衛生学講師）は、「シックハウス症候群と化学物質過敏症」と題して現在、厚生労働省の研究班により、推定される14種の化学物質について室内環境基準づくりが進められていることを紹介され、その中の一つ塩化ビニル樹脂の可塑剤であるフタル酸エステル濃度と不安との関連性等について報告されました。また、化学物質過敏症はいまだに“Unexplained Syndrome”であり今後の課題としながらも多くの場合「臭い」が発症と増悪の引き金になっていることからフェロモンのように嗅覚に関連している可能性を示唆されました。

この後休憩をはさんで、全体討論が白川教授も入って開催されました。その中で、白川教授は今後産業現場におけるゲノム情報の取り扱いに対応できる学会倫理指針にしておく必要があると提言されました。

## 平成14年度

## 第2回近畿産業看護部会研修会の報告

近畿産業看護部会幹事  
西内 恭子

近畿産業看護部会は平成14年度研修会のメインテーマを「最近の労働衛生の動向」とおき、2回にわたり開催しました。第1回は昨年10月に行政の観点から「最近の労働衛生の動向～過重労働・深夜業などについて～」と題した講演を開催しており、今回は第1回の講演をうけた形で、過重労働による健康障害への具体的な予防対策に重点をおいた講演を、平成15年2月22日にドーンセンター（大阪府立女性総合センター）で開催しました。

テーマは「過重労働による健康障害とその予防対策について」と題して、大阪ガス(株)健康管理センター所長の岡田邦夫先生にご講演をいただきました。講演では過重労働は事業主の安全配慮義務や産業保健専門スタッフのプライバシー守秘義務、両者の疾病予防義務違反など法的背景における多くの問題をかかえているという状況が事例に基づいて提示され、その解決のためには一次予防と集団アプローチを重視した戦略計画の重要性が示されました。また、過重労働により悪化が予測されるメンタルヘルスや作業関連疾患、脳・心臓疾患、死の四重奏といわれる高トリグリセライド血症・高血圧・肥満・耐糖能障害などの予防のために、産業看護職として取り組むべき健康管理の視点や労働時間管理のための産業医や労務との連携の必要性など、具体的でわかりやすい説明がありました。

当日春寒の雨という悪条件にもかかわらず予想を上回る参加者があり、質疑応答も活発に行われて過重労働に対する産業看護職の関心の高さがうかがえました。岡田先生からはご講演内容を60枚にもおよぶ図表にまとめた資料が参加者全員に提供され、産業看護職にとっては貴重な資料として活用できると思われます。



## お知らせ

## 産業医協会・健康スポーツ医学委員会合同研修会

事業所内の健康保持増進対策—勤労者へのスポーツ振興—

日 時：平成15年6月21日(土)13:30~16:30

会 場：大阪市立大学医学部学舎 4階 大講義室

内 容：基調講演「生活習慣病と運動」

パネルディスカッション

「運動指導にあたっての問題点」

日医認定産業医制度 基礎(後期)/生涯(専門) 3単位申請中

日医認定健康スポーツ医制度における再研修会 2単位申請中

受講料：3,000円

申込方法：6月21日合同研修会参加希望と明記し、①氏名、②勤務先名(職種)、③連絡先FAXもしくはTEL(自宅か勤務先かを明記)を記載し、FAX(06-6766-2875)でお申込み下さい。定員超過のため参加して戴けない場合のみ連絡致します。受講票の発送は致しません。

## 第10回日本産業精神保健学会

メインテーマ：産業現場で役立つメンタルヘルス活動

日 時：平成15年6月13日(金)・14日(土) 9:30~17:30

会 場：エル・おおさか 会 長：夏目 誠

シンポジウム

I：こころの健康づくり対策の展開・事業者支援等をめぐって

II：激変する職場環境とメンタルヘルス

III：生活習慣とメンタルヘルス—事例を中心に— 14日13:30~17:30

このセッションのみ日医認定産業医生涯研修4単位申請

IV：産業精神保健で役立つ認知

パネルディスカッション

I：産業精神保健における統合的アプローチ

II：メンタルヘルスにおける産業カウンセラーの役割

特別講演：増加している働く女性のストレスと摂食障害

産業看護職継続教育 実力アップ単位認定申請中

詳細は事務局へお問い合わせ下さい。

(財)日本予防医学協会関西支部内

TEL：06-6362-9042/FAX：06-6362-1087

FAXで必ず事前申込をして下さい。

## 第11回近畿地方会労働衛生法制度研究会

メインテーマ：

「日本の雇用慣行の変容と人事・労務管理のあり方」第2回

副題：「新進経営者と若手労働法学者との対話」

日 時：平成15年5月31日(土) 13:00~17:00

場 所：近畿大学会館3階第3会議室

演 題：1.「雇用構造の変化と中小企業の人材活用戦略(仮)」

2.「ドイツの人事評価制度(仮)」

講師1：福田成康氏((社)PTNA専務理事・(株)東音企画社長)

講師2：緒方桂子氏(香川大学法学部助教授)

コメンテーター：井手亘氏(大阪府立大学総合科学部助教授)

詳細は、<http://www4.kcn.ne.jp/~missy/2thkenkyukai.htm>をご覧ください。

連絡先：近畿大学法学部 三柴 文典(みしば たけのり)

06-6730-5880(3514) プッシュホン用直通

06-6721-2332(3514) 交換台経由

t-mishiba@jus.kindai.ac.jp

世話人の準備の不手際で近畿地方会総会の開催日時と重複したことをお詫びします。

## 報 告

インパクトのあったロイブリ博士の特別講演  
—第6回職業関連性筋骨格系障害研究会報告—

去る1月11日、同志社大学今出川キャンパスの講義室をお借りして、10時から16時半まで、有意義な時間を過ごした。全国の頸肩腕障害研究会との合同開催であり、参加者が近畿にとどまらなかったことも大きな理由になっている。午前中は4つの一般演題報告を受けた。一演題30分と研究会ならではの十分な時間配分で、意見交換も堪能できた。紙面の関係で詳細を報告できないことは残念であるが、東先生(膳所診療所)は作業療法士に発生した頸肩腕障害の症例、北原先生(滋賀医大)は手話通訳が原因と思われる聴覚障害児教育担当教員に発生した手根管症候群症例、渡辺先生(芝大門クリニック)は難治性頸肩腕障害7例の臨床的特徴、三橋先生(ひらの亀戸ひまわり診療所)は書籍・雑誌の検品・仕分け作業に従事していた人の頸肩腕障害の症例を、それぞれ作業態様なども含め報告された。

白眉は午後のロイブリ博士の特別講演であった。頸肩腕障害では、頸部から肩、上肢にかけて、比較的広い範囲に慢性的なこり・痛みを呈する例が少なくはないが、その発症機序はよく分かっていない。最近、注目を集めている仮説の一つに「シンデレラ仮説」と呼ばれるものがある。発揮される筋力の大きさによって動員される筋運動単位に順番があり、極めてわずかな筋負担に対しても、常に活動している「働きものの」筋線維があって、これが痛み・こりの原因になっているという仮説である。ロイブリ博士は、その説を提唱した中心的な研究者で、豊富なスライドを用いて、仮説提唱にいたった実験結果、課題と展望などを1時間余りにわたって、じっくりと話をされた。同時通訳のおかげで、質疑応答も活発にかわされた。実に刺激的であった。

最後に、全国の頸肩腕障害研究会の主要な課題になりつつある「頸肩腕障害の定義と病像の再検討」に関して、小野先生(藤田保健衛生大学)から基本的な提起を受けて、研究会の幕を閉じた。(奈良医大・車谷)



# 会員の声



## 健康増進法時代の 職域保健を思う

大阪医科大学衛生学公衆衛生学教室  
助教授

渡 辺 丈 眞

「健康増進法」は健康づくりや疾病予防を国民的な合意として積極的に推進していくための法的基盤として昨年整備されました。今後、市町村を単位とした健康増進計画が策定され種々の判断が地域に委ねられる健康増進関連行政の地方分権化が益々推し進められていくと考えられます。一方、「労働基準法」及び「労働安全衛生法」を法的基盤とする職域保健では、作業関連疾患や生活習慣病への一次予防対策成果は未だに十分とはいええず、事業所規模、職種あるいは業種などによる健康較差がなかなか埋まらない状況にあると思われます。今後、勤労者が居住地域固有の健康増進関連資源（保健関連の専門家、施設、情報など）を有効利用できる社会環境を地域とともに協力整備していくことの方が、個人も参加しやすく、事業所もより良い効率が得られる健康増進方略となるの

ではないかと思われます。その意味でも健康増進関連行政の地方分権化傾向は、職域保健における行動指針の転換点となる可能性を秘めています。

また、ヒトの健康は、生涯を通じて目標設定されていくべきものであり、職域保健の中だけで完結するものではないはずで、自身の人生完熟期を保障しつつ、さらに家族、同僚などへの影響にも配慮できる健康づくりを心がけたいものです。「健康増進法」と連動した健康日本21（21世紀における国民健康づくり運動）では、個人の自助努力を支援する社会環境づくりが強調されています。例えば、喫煙は職域保健の最重要課題の一つですが、個人にその因を求める医学モデルだけではなく、社会環境に因ありとする社会モデルとの統合的解決が必要と考えられています。我々は、中年男子労働者の心自律神経機能への疲労困憊症状と喫煙との交絡影響について検討し、疲労緩和対策が喫煙影響の低減に貢献する可能性を示唆しました。しかし、その有効な実践策については個人や事業所よりも地域と連携した支援対策の方がより有用となるであろうと考えています。

市町村の地域健康増進計画策定に職域保健関係者が積極的に参加されることや地域健康づくり活動と協働できる近畿地方会学会活動のさらなる発展に期待し、微力ながら尽力したいと考えています。

\*\*\*\*\*



## 景気停滞期の産業医活動 - 快適職場形成を目指して -

松下電器産業(株)パナソニックネットワークス社  
映像事業グループ健康管理室所長

増 田 安 民

私が専属産業医として入社したのは、バブルが弾けた1990年でした。バブルが弾けたとは言え、まだ世の中はイケイケドンドンで自信にあふれ、経済的・時間的余裕がありました。その当時、企業では生活習慣病予防のための健康運動が盛んに取り入れられ、わが社でも運動指導担当者を積極的に雇い入れて各事業場にT H Pの実践を推奨していました。

私も旧厚生大臣認定の健康運動指導士の資格をとったことが切っ掛けで健康運動指導による健康管理を目的として産業医になりました。そういった意味では会社側の求めているものと私の目的としたものが一致していたため、私の産業医としての前半は生活習慣病予防に重きを置いた活動でした。

その後の長い景気停滞のため、この数年わが社も事業の再編成と縮小を行わざるを得ず、昨年は早期退職者を

募り、また残った従業員への給与カットも行われました。残った人たちがやる気をなくす、いわゆるサバイバー症候群による生産性の低下を来す危険性が私の勤める事業場にも現実味を帯びてきました。この時代、産業医に求められているのは健康保持増進とメンタルヘルスケアは勿論のことではありますが、他に従業員のやる気の喪失を抑えて生産性向上に役立つ活動であると思います。それは従業員のやる気をなくさせる作業環境や作業の改善、すなわち快適職場の形成であると考えています。

これまで有害作業環境・作業の改善や喫煙対策は行ってきましたが、従業員からの暗い、眩しい、暑い、寒い、狭いなどの訴えに対しての改善活動は、安全衛生委員会ですべてを報告するぐらいでどちらかと言うと消極的でありました。人員削減のため一人の仕事量が増えそして残業や休日出勤が当たり前で多くの従業員は肉体的にも精神的にも疲れきっています。心のゆとりを保てないような作業環境を放置しておくことが、やる気をなくさせる一つの要因に繋がるのではないかと反省し、コスト削減が当たり前の時代ではありますが、安全衛生委員会メンバー、施設担当者など多くの方々に協力していただきながら残った従業員が「松下電器は良い会社だ」と感じ、生産性向上に役立つ快適職場づくりを進めている次第であります。

## 会員の声



### 企業トップの悲哀

前久保クリニック

前久保 邦 昭

私の心療内科クリニックは、周囲が会社、官公庁という立地条件にあり、会社関係の患者さんが多い。経済高度成長期からバブルを経て未曾有の不況へ、診療を通して日本の経済を支えた産業人の心の絵模様を垣間見ることが出来る。特に不況が長引き、管理職以上のストレスはいやが上にも大きいようだ。45歳以上の死因の中の自殺の順位がここ数年、年毎に上位になっていることからそれが分かる。

まして、企業のトップのストレスは口に言い表し難いほど大きく、その上孤独なようだ。合併する会社の社長、中小の会社の社長、みんなみんなストレスフルで孤独であるが故に診察室が安心できる場所だと分かる人と言

\*\*\*\*\*



### 今・企業ニーズに応えられる 産業看護活動の実現に夢をだいて

関西セキスイ工業(株)  
保健師

上 坂 聖 美

「リストラ」「固定費削減」と言う言葉が違和感なく聞かえてくる昨今、産業現場で看護業務に携わって15年が過ぎ、ふと原点に戻って「産業保健とはなんだろうか?」「産業看護に求められる企業ニーズとはなんだろうか?」と考えてみました。産業看護活動は、企業ニーズへの充足があっはじめて成り立つのではないのでしょうか。では産業看護職に求められる企業ニーズとは何なのでしょう?そしてそのニーズに応えるには何をどうすればよいのでしょうか?

私たちの活動するホームグラウンドである企業は、生産性を高め利潤追求に向け日夜努力しつづけている組織です。学校を出て企業戦士として働き、職場を去るまでの永き年月をそこで過ごします。生活の糧を得、生きがいを見つけ、仕事と生活の両立を計り、心身ともに健康で安全なときを過ごすのが理想なのです。しかし約半数の人は、年齢を重ねるにつれ、高脂血症・心臓疾患・脂肪肝・肥満・糖尿病など、生活習慣と関わりが大きい生活習慣病の症状があらわれます。これらの疾病は作業態様により悪化することから作業関連疾患とも呼ばれるようになり、産業保健の新た

えない会社の内情や愚痴話がわんさか出てくる。特に創業者で業績が悪化している会社の社長は悲惨だ。頑張っても、頑張っても会社の業績は奈落の底に落ちていく上に、「周囲の意見を聞かないワンマン」「身勝手者」と家族からも孤立してしまうことが多い。つい先日も、高度成長期には飛ぶ鳥を落とす勢いであった創業者ワンマン社長がアルコールにおぼれ、身も心もぼろぼろになって孤独のうちに死んでいった。家族にしてみれば、やっとほっとしたという面もあるだろうが、今の経済大国日本を作り上げた主役の一人と思うと、主治医としては何ともやりきれない思いがある。会社は大きくても小さくても会社のトップは悲しいほど孤独なのである。

はて、どんな会社が生き残っているのだろうかと目を凝らしてみると、つきなみな言葉であるが、王道を行く会社が生き残っているようである。身の程をわきまえ、平凡だが無理な借金をせずやるべきことをきっちりやっている、そんな会社が生き残っているようである。

これを他山の石として、昨今の厳しい医療界ではあるが、私も王道を行く事で、何とか生き残っていこうと心しているところである。

な対象となりました。また不況が続く中、どの企業も生き残りを賭け厳しい労働環境を止むなく強いられています。緊張の続く職場での人間関係や家庭生活等からくるメンタルヘルス不全や、不幸にして事故などの労働災害に遭遇することもまれにあります。

このような症状や事故の前兆や小さな危険(ヒヤリ・ハット)などを「早期に発見し早期に治療や是正」する二次予防と、健康で安全なときから行う「健康と安全の保持・増進」の一次予防に努力するのが産業保健の目的であります。ILO・WHOは産業保健の目標に「健康と労働の調和をはかり…」とうたっています。疾病や怪我は、企業にとっても個人にとっても「マイナス」です。この「マイナス」を少なくし、「プラス」にする産業保健活動や産業看護活動が、企業ニーズに応える活動といえるのではないのでしょうか。

私はひとつの方法として、不登校の治療に活用されている「行動理論」を用いた「行動療法」を生活習慣改善や労働意欲の向上プログラムに利用できないものかと考えています。生活習慣改善や労働意欲向上への「行動変容」は企業にとっては「すぐれた労働力の確保」に、また個人にとっては「充実した豊かな人生」を可能にします。企業にとって有益で、なおかつ個人の幸せにつながる産業看護活動の実現に夢を抱いています。今後、産業保健で活用できる「行動療法」の学習を積極的に行っていきたいと思っています。「行動療法にみる意欲の向上や疾病による欠勤の減少」などの成果を、統計的手法を使って目に見えるかたちで実績を積み重ねることが、産業看護の有用性を企業に、より認識させることに繋がると考えます。

## 近畿の産業保健活動—兵庫県—

### 兵庫県医師会産業保健活動報告

兵庫県医師会担当理事 大隈 義彦



当欄において前2回は主に地域産業保健センターの運営状況について述べさせて頂いた。平成14年においても当センターの運営に鋭意取り組んでいるが、本稿に於いてはその他の事蹟についても述べていきたい。

#### I. 産業保健研修会開催

研修会については恒例により基礎研修・生涯研修会を計6回（受講者数計1200名）施行した。また、兵庫産業保健推進センターと共催研修会を計18回（受講者数計660名）施行した。この他に第75回日本産業衛生学会（会長 住野公昭 神戸大学教授）が神戸で開催されるのを機に会長のご好意により、平成14年4月13日学会連携のもとに特別研修会を開催した。更に平成14年6月1日～6月2日の第25回日本プライマリケア学会（会頭 橋本章男兵庫県医師会長）において、特に産業医研修部門を設け、日医産業医認定研修会とした。

#### II. 地域産業保健センター運営

県下において11の労働基準監督署があり、各々に地域産業保健センターが設置され、県下34の郡市区医師会がこの運営に携わっている。センターを単一の医師会が運営している所では問題はないが、複数の医師会で運営しているセンターでは、各医師会間の連携に種々の工夫がなされている。また、設立の時期の新旧による運営の差、都市部と郡部での運営の差がみられ、健康診断未実施事業所の多い地域、センターの知名度の低い地域では、相談窓口事業や事業所訪問指導等に苦慮している。コーディネーターの活用や広報の方策、医師会員連携等々、努力を重ねながら少しずつ効果を表している。

#### III. 産業保健委員会

各郡市区医師会より8名の委員と6名の担当役員が、月に一回の委員会を開催し、以下の産業保健上の問題点について報告と討議を重ねてきた。

- (A) 会長諮問は「各地域産業保健センターの活性化—中小企業グループ産業医の推進について—」である。
- (B) 個別問題の討議は①エチレンオキサイドによる健康障害防止 ②産業保健関係者に対するウイルス肝炎エイズ政策 ③VDT作業ガイドライン取扱い ④健康づくり快適職場推進月間の取り組み ⑤第24回産業保健活動推進全国会議報告等々である。

#### IV. 二次健診事業進捗状況

二次健診対象者は、平成13年は125件、平成14年半期で111件と数字の上では増加している。但し、小規模事業所では1例のみでこれも治療中ということで、これからは地域産業保健センターにおいて大いに取り組む余地がある。

#### V. 過重労働負荷（過労死）予防対策

残業時間単位の変更と監督署指導強化、過労死訴訟等が功を奏し従業員への指導例が増加しつつある（但しここにはサービス残業が出ていない）。産業保健センターにおいても僅かであるが相談が出始めている。これらのことを踏まえて、センターでは事業所訪問や相談窓口において啓発を進めているところである。

#### VI. メンタルヘルスケア推進状況

個々の事業所の要望に従い、産業医が講演会等を開催し啓発に勉めると共に産業保健推進センターの専門相談医等が必要に応じて教育指導を進めている。将来は地区別、或いは事業所別のグルーピングを行い、各々の産業医を精神保健指定医がバックアップする体制を作るのが望ましいが、それには精神保健指定医の絶対数の不足を解決しなければならない。

#### VII. 日本耳鼻咽喉学会認定騒音性難聴担当医の活用について

担当医は県下で66名存在するが、実際には活用されていないのが現状である。その原因は担当医の処遇の問題と担当医の業務に関するPR不足によるものと思われ、今後は関係機関、特に産業保健センターとの連携を密にする必要があると考え、現在これに取り組みつつある。

## 会員の異動 (平成14年9月1日～平成15年1月31日届出分: 届出順)

## 入会

小林 恵子 石川島播磨重工業健康保険組合相生支部  
加口 雅之 カグチ歯科医院  
立間 治人 医真会八尾リハビリテーション病院  
中村 秀也 和歌山健康センター  
中山 光子 京都外国語大学  
縄本ひとみ 京都教育大学  
吉田 精司 せいじ歯科医院  
杉田 潔 (財)近畿健康管理センター (兵庫診療所)  
押本みどり (株)大阪屋総務人事部人事課  
田中 真理 花王(株)  
村田 尚之 徳永診療所  
北岡 修二 公立豊岡病院消化器科  
守山 敏樹 大阪大学健康体育部  
小坂 淳子 大阪総合福祉専門学校  
宮松 直美 大阪大学大学院医学系研究科 地域看護学講座  
曾根由美子 カノミ矯正・小児歯科クリニック  
松本 博一 (株)イトーキクレビオ  
藤木 太郎 (株)ふじき産業医学研究所  
木下真由美 松下電器産業(株)半導体社プロセス開発センター  
寺田 和史 和歌山県立医科大学 衛生学教室  
森岡 洋美 みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センター  
藤田 みわ アサヒビール(株)西宮工場  
水野真由美 松下電器健康保険組合松下健康管理センター  
山下 邦彦 ダイセル化学工業(株)  
福田 徳雄 ダイセル化学工業(株)

## 所属変更

阪上 皖庸 (財)近畿健康管理センター  
白杵 貴子 大阪府総務部人事室厚生課健康管理G  
成尾 静香 ナイス・ロジスティクス(株)近畿物流センター健康管理室  
森下寿々枝 星ヶ丘厚生年金病院  
津島 寿幸 おかたに病院  
梶木 繁之 エクソンモービル(有)医務産業衛生部  
田中志津香 エクソンモービル(有)医務産業衛生部  
酒井 章 (医)高折会 高折病院  
杉浦徹太郎 松下電器産業(株)AVC社北門真健康管理室  
鬼頭 有代 有希クリニック  
池上 陽一 松下電器産業(株)モータ社大東健康管理室  
西原 弘 三井住友銀行大阪中央健康管理室  
三好 雅美 (医)みよし内科消化器科  
大濱 和代 芦森工業(株)大阪工場 医務室  
三野 善央 大阪府立大学社会福祉学部精神保健学: 中国地方会より  
加藤 俊夫 三菱電機伊丹・赤穂地区統括事務所健康増進センター  
長谷川克宏 京都警察病院  
古村 敏大 川崎重工業(株)播磨工場保健診療所  
山田 美佐 東芝ヒューマンセットサービス(株)関西支社保健センター  
三宅 吉博 福岡大学医学部公衆衛生学: 九州地方会へ  
土橋奈都美 松下興産健康管理室  
米田 英夫 大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学講座(F2)  
古木 勝也 産業医科大学産業生態科学研究所作業病態学研究室: 九州地方会へ

杉岡 潔子 再入会  
小野 千恵 再入会  
合田美保子 再入会  
蓮尾 淑江 N T T西日本関西健康管理センタ  
川上 弘子 N T T西日本関西健康管理センタ  
白井 恵 (株)クボタ本社阪神事務所  
加藤 順子 旧姓: 岩井順子  
松本 政信 和歌山県立南紀福祉センター

年名 優美 旧姓: 林優美  
廣谷阿津子 松下冷機(株)冷熱部品健康管理室  
本比田眞百美 塩野義製薬(株)摂津工場診療所  
槻木 美保 (財)ルイ・パストゥール医学研究センター  
臨床研究部附属研究所  
土田 忠 淀川健康管理センター  
吉川 哲也 (医)よしかわ医院  
山口 茂樹 (医)慈友会 堺山口病院  
垣本 洋希 日本IBM大阪健康開発支援センター  
恵 千恵子 旧姓: 富田千恵子  
山中 佳子 再入会  
原田 早苗 再入会  
辻本 豪 医誠会病院  
広田 昌利 三洋電機産業保健センター

## 第8回近畿産業医部会研修会のお知らせ

日 時: 平成15年6月28日(土) 13:30~17:00

会 場: 兵庫医科大学3号館学舎 4階大講堂

阪神神戸線武庫川駅(急行停車駅)より西へ徒歩3分

メインテーマ: 「嘱託産業医の地域産業保健活動」

特別講演1) 最近の労働衛生行政について

2) 最近のウイルス肝炎の動向

- 通達「肝炎対策への協力について」の実践にむけて -  
シンポジウム「嘱託産業医の地域産業保健活動の現状と問題点」

日医認定産業医制度 基礎研修(後期) 3単位

(申請中) 生涯研修(更新) 1単位・(専門) 2単位

参加費 3,000円

参加申込・問い合わせ先: 兵庫医科大学 公衆衛生学教室内

第8回近畿産業医部会研修会 実行委員会事務局

FAX: 0798-45-6567 〒663-8501 西宮市武庫川町1-1

上記研修会参加希望と明記の上、①氏名、②勤務先名(職種)、  
③連絡先FAXもしくはTEL(自宅か勤務先かを明記)を記  
載し、FAXまたは葉書で申し込みください。定員超過  
のため参加して戴けない場合のみ連絡致します。受  
講票の発送は致しません。なお、問い合わせについ  
てもFAXをお願い致します。



財団法人 日本予防医学協会 <http://www.sunnet.or.jp>

本 部 東京都江東区扇橋 1-21-25 TEL 03-3649-3651

東日本支部 東京都江東区扇橋 1-21-25 TEL 03-3649-6111

関西支部 大阪府北区西天満 5-2-18 TEL 06-6362-9041

西日本支部 福岡市博多区博多駅前 3-19-5 TEL 092-473-0547

名古屋出張所 名古屋市中区代官町 39-18 TEL 052-931-0526

茨城連絡事務所 茨城県鹿嶋市大字光 3 TEL 0299-82-7736

## 議 事 録

## 平成14年度第4回定例幹事会

日 時 平成15年4月3日(木) 18:00~20:00  
 場 所 大阪市立大学医学部学舎 18階 会議室  
 出 席 堀口 植本 圓藤 岡田 河合 小泉 車谷  
 杉本 山田 大脇 道辻 清田(幹事12名)  
 原(監事1名)  
 大東 石山(理事補佐)  
 欠 席 藤木 河野 宮下 日高 西村 上田進  
 長澤(幹事7名)  
 住野(監事1名)  
 事務局 高田 (敬称略、順不同)

## 《報告》

1. 本部理事会報告  
 圓藤理事より以下の報告がなされた。
  - ①定款改正について
  - ②非常設委員会設置について
  - ③その他
2. 平成14年度事業報告について

## 《審議事項》

1. 第14回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会(平成16年)の開催について  
 平成16年度開催として近畿に依頼がきている事について審議され、近日中に関係者による会議を開くことが申し合わされた。
2. 第51回近畿地方会総会について  
 植本寿満枝学術担当理事より資料に基づき、進捗状況が説明された。
3. 平成15年度事業案について  
 資料に基づき説明された。総会の開催と同一日に開催予定になっている研究会があり、当該研究会に日時の変更を促すこととなった。今後このような事が発生しないよう関係者に注意することになった。
4. 平成14年度決算および平成15年度予算案について  
 資料に基づき説明された。
  - (1)平成14年度決算について  
 雑収入の内訳が説明された。
  - (2)平成15年度予算案について
    - ①平成16年に近畿で産業医・産業看護全国協議会が開催される予定であるから、第75回日本産業衛生学会(神戸)からの返金金額を補助金として計上する。
5. その他

## 平成13年度実施本部理事長選挙について

平成14年5月総会にて堀口会長より事実説明がなされ、その上で文章にして全近畿地方会員に送付することが承認されたが、発送直前に監事より、内容に関連して送付中止の指示を受けて凍結されていた。本日の幹事会にて発送停止命令が解除され、審議された。その結果、平成14年6月25日付けの「謹告文」を、5月1日号の地方会ニュースに同封することが幹事賛成多数にて可決された。

## お知らせ

## 第43回近畿産業衛生学会(第一報)

学会長: 井口 弘  
 日 時: 平成15年11月8日(土) 9:30~16:45  
 会 場: 兵庫医科大学 3-1講堂、3-2講堂及び3-3講堂  
 住 所: 〒663-8501 西宮市武庫川町1番1号  
 (阪神武庫川駅より神戸に向かって: 徒歩5分)  
 プログラム(案):  
 9:30~11:45  
 一般講演(3-1、-2及び-3講堂を予定)  
 11:45~13:00  
 この時間帯に幹事会及び評議員会を夫々、第1会議室(10号館2階)と第3会議室(10号館3階)にて行う。  
 13:00~16:45  
 シンポジウム及び特別講演(3-3講堂)  
 ・シンポジウム: 企業労働者の自殺とメンタルヘルス(仮)  
 ・特別講演:  
 ①有機溶剤の毒性について(仮)  
 講師 河合俊夫 中災防大阪センター副所長  
 ②化学物質によるヒトの発がん(仮)  
 講師 佐藤茂秋 兵庫県立加古川病院長  
 懇親会: 17:00より10号館10階レストラン リビエールにて予定しています。(懇親会費2000~3000円)。  
 ◆日本医師会産業医生涯研修単位認定を申請予定  
 ◆日本産業衛生学会産業看護職継続教育(実力アップコース)単位認定申請を予定  
 ◆演題募集要項は7月号の地方会ニュースに掲載  
 演題締め切りは9月上旬を予定  
 学会事務局連絡先: 兵庫医科大学衛生学教室  
 〒663-8501 西宮市武庫川町1番1号  
 第43回近畿産業衛生学会事務局 和田安彦  
 Tel: 0798-45-6563 (Ex.6563)  
 Fax: 0798-45-6562  
 (e-mail: wadayasu@hyo-med.ac.jp)

## 編集後記

第76回日本産業衛生学会(山口)も盛会裏に終わり、日頃の成果を発表された方々、シンポジストとして参加された方々、座長として役目を果たされた方々等々、何となくホッとした時を過ごされていることと思います。皆様も周知のように、全く夜明けも見えない経済不況の中、勤労者を取り巻く健康状態は想像を絶するほどに、悪化しています。私たち、産業保健担当者がプロとして少しでも勤労者の健康の確保に手を差し伸べられるかが、今後さらに厳しく問われることになると思います。本地方会ニュースは、このような状況の中にあって会員各位の懸命の努力の手助けをするコミュニケーション紙として役立てればと思っております。今後とも、本ニュースがますます充実するよう会員各位のご支援、ご協力をお願いして、編集後記とさせていただきます。(杉本)

## 編集委員(五十音順)

大東正明、大脇多美代、岡田章(編集責任)、  
 車谷典男、杉本寛治、日高秀樹、道辻広美、山田誠二  
 次回発行日 2003年7月15日  
 (原稿締切日 2003年5月31日)